



หนองคาย

ノンカイ

～タイ東北の奇伝の街～

サラケオクー寺境内に作られた
巨大なコンクリートの仏教世界パノラマ
南国の抜けるような青空の下では
地獄絵図さえどこかほのぼの

東昇 [文・写真]





5	4	1
7	6	3 2

1. 旧仏領ラオスの影響か、南欧風の建物が残る
 2. パンも見かけはフランス風だが、米粉を混ぜて焼くので味はタイ風味
 3. ミッタパーブ橋開通まではこのような小舟で交易が行われた
 4. ヒンズー教の色彩が強い偶像が多い
 5. 地獄の釜ゆでなのだが、温泉に浸かっているようにも見える
 6. メコン川に水没した仏塔
 7. 輪廻パノラマの添い遂げた夫婦の骸骨
- 左頁・広大な境内に大小の像が並ぶ



หนองคาย

ノンカイ

～タイ東北の奇伝の街～

ラオス国旗を掲げた小船が、濁流の大河をふらふらと流されながら斜めに渡って行く。一見おだやかなメコンの流れだが、実際はかなり急なのだ。川面に突き出た茶褐色の岩のようなものは、水没した仏塔の頂上部だという。今は乾季で川の水かさが低いのに、塔は岸からかなり離れた位置にあるので、昔は川幅が今より狭かったということだろうか。

ノンカイはタイ東北国境のメコン河畔に開けた市場街である。対岸はラオス領で、ラオスの首都ビエンチャンはメコン上流わずか25キロにあり、まさに目と鼻の先。街の西側のメコンを渡るミッタパーブ橋を通れば小一時間で行くことができる。対して自国の首都バンコクはノンカイから600キロ以上も離れている。

街が形成されたのはおよそ200年前と言われ、当初は現ラオスの規範となったランサーン王国領だったが、後にタイの統治下に置かれた。ラオスのフランス植民地時代に国境交易で街は発展する。ラオスが社会主義化した西側諸国に門戸を閉ざしても、ノンカイを窓口にした交易は小規模ながら続けられ、ベトナム戦争中や東西冷

戦期にラオス国境地域でのインフラ整備などに西側資本が投入されたことなども手伝い、街はゆるやかに拡大を続けた。冷戦が終わるとラオスとの交易は増大。1994年にはミッタパーブ橋が開通して街はにわかに活気づき、人口も20万人を超える。しかし、昨今は往来が便利になり過ぎるとノンカイは素通りされ、市場街としての役目が土地も人件費も安いラオス側に奪われるのでは、との懸念の声も上がっているという。

メコン川沿いのターサデット市場アーケードには、バラック建ての小さな商店が300〜400メートルにも渡って延々と続く。売られているのは食品や衣料、小型電化製品など、ほとんどはタイのどこにでも見られるありふれたものだが、なかにはラオス経由で持ち込まれた旧ソ連の軍用時計など珍しい物もちらほらと並ぶ。ソ連崩壊時には、混乱に乗じて横流しでもされたのか、時計以外にも軍服や工具などのソ連軍用品が大量に出回ったことがあった。ところで、この市場

はインド・チャイナ・マーケットの俗称を持つが、商品の生産国の内訳は、多い順に、中国、ベトナム、タイ、ラ

奇伝の寺

オスといったところで、インド製品はまれである。

頭にドクロを散りばめた三つの顔と6本の腕を持つ仏、七頭の大蛇に座す仏、月を飲み込み月食を起こす悪魔——青空を背景にそびえ立つ奇伝鬼神の数々。これら巨像が祭られているのはノンカイ市東郊のサラケオク寺である。

サラケオク寺は1978年にブルア・スリラットを開祖として建立された。スリラットは1932年にノンカイに生まれ、後に家族とともにラオスに移民。もつとも、当時は移民したと言うより「川向こうに引越した」という感覚だったろう。スリラットは寄付を募って、58年にノンカイのメコン川対岸に、サラ・ケオク寺の原型と言えるシェンクワン寺を建立し、奇伝の数々を作る。75年にラオスが社会主義化するとノンカイに戻り、シェンクワンに似せてサラ・ケオク寺の建設を始めた。

96年にスリラットは他界し、そのミイラ化した亡骸は寺内に安置されて

いる。タイの僧侶は剃髪して黄衣をまとるのが常であるが、氏の生前の写真を見ると、リーゼントのような髪型をして黄衣も身につけていない。氏の教義はヒンズー教の影響が特に強く、タイ仏教界では異端視されているとのことだ。

初見では奇異に見えた彫像たちであるが、順にたどってゆくと、実は釈迦の誕生から入滅、人間の輪廻転生、因果応報など、多くは日本人にも馴染みの深い仏教寓話が描かれていることに気づく。像の多くはスリラット自身がデザインしたものとされる。氏は美術や建築の訓練を正式に受けたことがなく、どれも手作り感が濃厚で、素人ならではの自由でほのぼのとした造形になんとも言えない味がある。もし職人によつてそつなく作られていたら、これほどユニークなものにはならなかったろう。

地獄の釜茹でなども描かれているのだが、なんだかお年寄りが、のんびりと温泉にでも浸かっているように見える。タイの青空の下でサラケオク寺のパノラマを見てみると、地獄もそれほど居心地は悪くなさそうに思えてしまうのだった。